

◆◆◆◆◆職員室の声◆◆◆◆◆

(アンケートより)

「毎日職場が楽しくてしようがない」とか、「いやでいやで、い  
ますぐにでもやめたいほどだ」とか、この種の話題（あなた自身  
も、一度は思ったことがある）は、とどまるところを知らず、聞  
かされ、語られている。そして、その原因は、複雑な人間関係につ  
ながっている場合が非常に多いのである。

小人数社会、そのほとんどが女性で、しかも子どもたちという対  
象をもつ幼稚園・保育所の先生方の関係も、良きにつけ、悪しきにつ  
け、日常のまさつが感情生活をゆさぶり、先生方自身だけの問題  
にとどまらず、子どもに何らかの影響を与えてしまうにちがいな  
い。がつちり、四つにくんだ先生方のチーム・ワークが保育効果を  
何倍にも高めていく場合もあるだろうし、冷たい関係が直接子ども  
にぶつかってしまう場合もある。実際にどういう人間関係がある  
のか、現場の諸先生方の経験を次のような要領で、語っていただき、  
そのあり方を考えてみることにした。

一、保育者の立場。

二、あなたの園では人間関係に問題があるか。

三、人間関係の不調和のために保育の実際にも影響があるか。

四、人間関係の問題のために園をやめたいと思ったことがあるか。

五、あなたの経験なきった人間関係の問題について。

六、園の職員間の人間関係をよくするために、あなたは、どのよう  
な点に努力しているか。

A 先生



一、現在私立幼稚園勤務。教諭として、三年目、職員は五人。

二、私の園では人間関係の問題はない。

四、人間関係の問題のため園をやめたいと思ったことがある。

五、経験した人間関係の問題について。

短大をでて二年目、未経験のままにも子どもに触れ、ひとりひとりを大切にしようと意欲いっぱいの頃、五年間も勤め、保育内容に計画性もなく、家庭をもち、朝子どもを近所にあづけ、でてくる方と共に働き、その働きが余りにいいかげんなのに反はつを感じ、一時はどうしても一緒に働くのがいやでにげだすことも考えました。そんなふうな日々でしたが、子どもをあづけることに困難になり、その方がやめて行きました。

六、人間関係をよくするための努力点。

○先生方との結びつきは大切ですが、保育以外の私的な生活態度においてあまり深く交わりのない方がよいのではないか。

○保育の面では月の保育計画を皆でし、それを行なっていくのは、クラスの責任である教師ひとりひとりにあるので、お互にあまりどのようにするかなどの助け合いはない方が、お互いに気が楽であると思う。そして、ことば（教師の）、やっていることなど気になる

ことも多くありますが、批判的な目で見ることは一番いけない。

○自分の考え方をいつでもはつきりと持っているそれをすぐに言うことはできなくとも、いつか話しあう機会を持つ、そしてそのときはお互いを尊重し合うようにしています。



## B 先生



一、現在公立幼稚園に勤務。教諭として、三年目、職員は三人。

(園長は小学校と兼務のため除く)

二、人間関係の問題は、職員と職員間にあり、主として、保育におけるまきつ、あるいは保育に関連した仕事においてである。

三、保育の実際には努めて影響のないようとしている。

四、人間関係の問題のため、園をやめたいと思ったことがある。

五、経験した人間関係の問題について。

新卒で就職して三年目、保育にも職場にもだいぶ慣れ、職員間の人間関係もだいぶ円滑にくくなつた。現在、職員三人、四〇代、三〇代、二〇代と年令の開きもあり、お互いに遠慮しあっていふ点も多いが、いい先生方に恵まれ、たいしたまきつもなく過している。よくうわさ話に聞くように、いじわるをして、非常識的なまきつはないが、主任の先生が、やさしく、物事に対して厳格でないのに比べ他の先生が、非常に物の考え方が厳しく細かいため、保

育諸事に対してのくいちがいが生じ、時々気まずい空気が流れることがある。職員の年令、保育経験、その園での勤務年数、その人の実力などは微妙に人間関係に影響するものである。

二番目の先生は特に私に対して厳しく新卒、未熟な私に対してもいろいろと要求することが高く、期待にそえず、劣等感におち入り、感情的に言われるために恐怖症になり、相手の一挙一動を気にしたり、毎日出勤する足が重く、幼稚園の先生になつたことを何度も後悔したことである。しかし、一つひとつ反省してみると、もう一步気をくばらなければならなかつたと思う点ばかりで、努めて、改めるようとしている。つい感情的に言われると自分に対してもくしみをいだいているように思われ、つい口をきかなかつたりそむいてしまう。また能力以上に過度の要求をされるのも、負担になり辛いものである。物事に対し厳格であるけれど、ノートを作つて、感情的にならないようなど、いろいろ保育の面で批判してくれたり助言してくれたり、私との心の交流をはかつてくれ、地についた教師になるようなど、いろいろ気を配つてくれ、多いに感謝している。

たつた三人の職場だと、少しの気まずいことがあれば息がつまりそうになり、実に辛いものである。「何か言うことがあつたら何でも言つて下さい」と、たまりかねて言つたりしたのである。最近は職員間も園長との間も、割り合いくらいついているように思うが、自分の気持ちのもちようで毎日が楽しかつたり、おもしろくなかったりするが最近は、気持ちに余裕が出てきたのかいくらか冗談も

とばせるようになり、たのしい毎日になりつつある。

## 六、人間関係をよくするための努力点。

よりよい保育をしていくには、体育技術、理論も大切であるが、何よりも大切なのは職員同士が円滑に交流しあい、呼吸がピッタリあつてのことだと思う。ほとんどが女性だけ、しかも少人数の職場であり、き細なことが人間関係に響き、感受性豊かな子どもたちには

教師のちょっとした感情も影響するだけに、お互によりよい職場を作つていきたいものである。就職一、二年というものは、毎日が緊張の連続であった。幸い、いい先生方に恵まれ、たいしたまきつもなく過しているが、よりよい保育をさせえるためによりよい人間関係を作つていくために、自分ががらに考へていることをあげると、

- 一、いつも明るく謙虚な気持で接すること。
- 二、注意されたり、助言はすなおに受け入れ、失敗したらすなおにはつきりあやまること。

三、いつも物事に対し、自分の考えをはつきり表明すること。

四、保育に関すること、保育外のことでもすべてオーブンにし自分で判断したり、行動したりせず、相談して解決していくこと。

- 五、いつも慎重に行動すること。

六、たえず気を配り、仕事がある時は、気軽に行動するよう努めること。

七、職場内の問題は、積極的に自分たちで解決していくようにし、外部にもらしたり、悪口を言つたりしないことなどである。

何といっても、新卒一、二年の間はすべての面において一番辛い時であり、人一倍の忍耐と努力を要する。二年の間にいろいろの経験をし人生勉強をした。今までの苦い経験を生かして、いつも明るくすなおに全力を尽くす。これが教職三年目の私のモットーである。



## C 先 生



一、現在私立幼稚園に勤務、教諭として三年目、職員九人。

二、私の園では人間関係の問題はない。

## 六、人間関係をよくするための努力点。

私は、特別に、人間関係ということで、困ったことは、幸いにしてございません。これは、先生方が、皆、よくできた方ばかりだからだと思います。結局、こんなところに、毎日、楽しい保育が行なわれているのではないかと思ひます。

① 先生方は、各自のクラスに責任を持って保育する。従つて、よほど、保育内容に対して矛盾を感じなければ干渉しない。よつて、干渉もされない。これは、アメリカのモンロー主義の不干涉主義に似ているかもしませんが、各先生方が、自信を持つて、保育しています。

② 保育時間終了後は、クラスの仕事が終れば、（合団の仕事がない場合）用事のある時は、帰つてもよいということ。やは

り、これは、程度問題ですが、このような雰囲気がみなぎっています。特別にこの二点は、私達の関係をより楽しく、さっぱりした雰囲気にしているような気がします。結局、園長先生はじめ、主任の先生のお気持ちが、自然にこのようにしたのだと思います。



## D 先 生



一、現在公立幼稚園につとめている。教諭として四年目、職員三人。(園長は小学校と兼務のため除く)

二、私の園では、人間関係の問題は、主任と職員間にある。主任として、園長が幼稚園に対し比較的無関心のため、主任が独裁的になっている。たとえば、会計など一人でやって、我々や父兄に何の報告もなかつたり、職員会議もやる必要なしということで、我々が考えを述べる機会が与えられていないことなど。

三、保育の実際にも影響がある。

○主任に嫌われる組の子どもにも、主任は冷たい態度を示す。○保育中にいや味を言つたり、叱つたりして気分を悪くされると、子どもには明るい態度で接しようと思つても、やはり気分爽快の時とは違う。人間関係がうまくいっている時は保育中にいや味を言うことはないはずである。もつともな注意や助言はありがた

く受けけるが、いじわる的なことは素直に受けられないものである。

四、私は人間関係のために園をやめたいと思つたことがあります。

### 五、経験した人間関係の問題について。

私は初めて就職した時、喜びと希望で満ちあふれていました。社会人として、教育者としてこれからたくさんのこと学び、そして

学校で学んだらゆることをできるかぎり役立て、一生懸命努力したいと思つていました。しかし一五才も年上の主任の先生は、このようないの姿を見て、励まして下さるどころか、「そんなにやらなくともよい」とか、「希望なんか持つてもしょうがない」と言つては、ある時には強い嫉妬心のようなものも見られました。幼稚園の行事などについても皆自分の意見がないので話し合にならず、いつも私の意見がそのまま、園の意見として通つていた有様です。私は自分の園では学ぶことも少ないのでこっそり、努めて他園へ見学に行つたり、遊びに行つていろいろのことを吸収していました。

だんだん学校の先生方や父兄の方々がこのような私の姿を見て、励まして下さつたり応援して下さるようになると、ますます主任の先生は私に目立たないよう意地悪をするようになりました。そしてついには私の組の子どもにまで冷たい態度を示されるようになつたのです。私は主任の先生として敬意を表したいといつも思つっていました。意見を言つてもよい時には自分の意見や考え方を言いましたが、その他の時はいつでも自分では努力してきたつもりなのですが、いつのまにかこのような悪状態になつてしましました。就職し

て一年目の園長先生は、誰からも尊敬されていた立派な人格者でい

らしたので、このような私達の間をいつも、うまく解決して下さい

ました。が次に変った園長先生からは、"君は生意気だ"と叱られ

だけでした。叱られる内容も素直にうなづけないことばかりです

し、園長と主任の他は先生方も父兄も皆、私に応援して下さいまし

たので、私はその中にあっていつも子どもたちだけには悪い影響を

与えたくないと思っていつしょうけんめい頑張りました。そして四

年目に幸運にもすばらしい幼稚園に転勤することができ、前よりも

増して一生懸命努力していきたいと張り切っているのです。

## 六、人間関係をよくするための努力点。

教育者は「人を愛する」ことのできる人でなければならぬと思ふ。子どもを心から愛し同僚や隣人を真に愛することのできない人は教育者として失格と思う。私はこの精神さえ持つていれば、人間関係なんて、自然とうまいくのではないかと思ひます。他人はともあれ、自分はこのような「人間愛」というか、「隣人愛」というか、人を愛する気持ちをもちたいと願っています。注意されたら素直に受けけるだけは受けるべきで、納得のいかないことは心の中にしまいこんでやがては他人を憎む気持ちにさせないで、面と向かって追求していくべきだと思います。そして仕事のことでお互に言い合つてその人を憎んではいけないと思います。いつも心の中を明るくしておきたい、そして常に人生を楽しみ、喜んでいたいと思います。どんどん伸びてくる若い方に負けないよう、自分自身読書をし

たりして見聞を広め教養を深めていきたいと願っています。



## E 先 生



一、現在つとめていない。六年間の教諭経験。その当時のこと。

二、人間関係の問題があつた。それは、職員と職員間である。

三、保育の実際には影響がなかつた。

四、人間関係の問題のために園をやめたいと思ったことがある。

## 六、人間関係について思うこと。

幼稚園生活六年間をかえりみて、それは複雑な人間関係の中で葛どうの一日一日であったように思われます。園長と職員、園長と主任、主任と職員、職員と職員、この一人ひとりがおりなす目に見えない葛どう、数多い問題それが幼稚園の赤裸々な実態ではないでしょうか。私はここで、一つ一つ具体例をあげようとは、思いません。その一つ一つは、誰もが味いそしてどこの園でも起り得る類似の事柄であるでしょう。その解決は、それが共通の問題であるということによって、でき得るでしょうか。異った立場異った性格、異った能力、以上のことから生じ得るいろいろの問題をとくかぎは、いつも自分自身の中にあると信じておりました。その中で、眞の生きかたを見い出すことに決して疲れてはならない、そう思つております。正直に自分を問題にぶつけていく、それは大きなエネルギー

の消費であります。もつて、いるありだけの知性と判断力と情熱をかたむけるとき、おのずと生きた教育の場がひらけると思います。表面だけの解決、その場限りの笑顔で満足するなら、その教育は死に、再び前進することはないでしよう。

体を動かすことだけではなく、心も死なせてはならない。こう考えることが、わたしにとって問題を解決する鍵でありました。大きく目をあけて大空をあおぐような活力と、小さな花にしみじみと幸せを感じる心のゆとりを教師は常に持ちたいと思っております。



## F 主 任



一、現在、主任として寺院で経営する私立幼稚園に勤めて一周年、職員一三人（園長・副園長・主任・先生七人・事務員・通園バスの運転手・用務員）

二、私の園では、人間関係の問題があつた。

四、職場の人間関係はつくづく難かしいとかつて思い悩み、行き詰ってしまったことがしばしばありました。

五、経験した人間関係の問題について。

この園が開園したのが一〇年前で、その間にはいろいろな職員間のトラブルが、激しくあるいは静かに起り、園の歴史と共に、解決あるいは未解決のまま去つて行きました。

園長先生・副園長先生は事実上名目的な存在になつており、園に姿を見せられるのが年間を通じて、四、五回です。従つて実際上の運営は一名の職員にまかされている状態で、そこに起るすべての問題の責任は主任にあり、その解決には常に非常な苦労をして参りました。さてその問題ですが、先ず園長・副園長と主任の関係において、園長が副園長を通さず直接主任に一切の相談を持ちかけるために起る問題。次に主任と職員間に起る問題ですが、園長と被使用者である職員の中間にあって是是非非の公正な立場におかれながら時にはそのどちらからも誤解されることがあります。職員と職員との問題は一番数多く、物の言い方、聞き方の相違によってとかく感情的になり、さ細なことでも大問題にまでこじらせることが多くありました。また職員と事務・用務員・運転手との間でもそのようなことがあり、さらに仕事の内容が違うために顔を合わせる機会が少ないので、相手の職業に対する理解が少なく、自分だけに負担がかかっていると思い込むために起る問題等いろいろあります。が、冷静に客観視しますとつまらないことが原因になつてゐる場合もあるのだが当事者は深刻になつて、建設的に解決ができず、いつも紛糾させてしまします。そしてこれらのトラブルは各個人の負担にかかるといふうちはまだ良いのですが、心に苦のある時は必ず顔に、態度に現われてきます。このような教師の心理状態は保育に一番の大敵となつて参ります。以前に先生同士の不仲のために、その受持の園児たちが対抗的になつてしまふなど困った状態にまで

発展したことが一時的にありました。

先生の中には自分の嫌いな人の組の園児や父兄までも、なんとか嫌な気持ちになつたと申している人もありました。

これらの問題の根本的な原因を考えてみますと、相互理解の欠如や話し合いの場が足りないなどにしばられると思います。

#### 六 職員間の人間関係をよくするための努力点。

職場内の和をことあることに強調し、話し合いの場ができるだけ多く持ち、時には職場懇談会を開き全職員会食を共にしながらディスカッショ n をするようにしました。最初のうちは用務員さんなど遠慮しがちでしたが、全員が年長者として尊敬するようになつため、最近では進んで意見を述べるようになりました。また休日などには職員を主任宅に招いて仕事外の気楽なおしゃべりをしたり、退園後お茶や映画などに誘い合つたりして親睦を図り、相互理解に努力しております。年に二回以上の職員旅行も重要な一役を買っております。このように相互に接觸する機会をより多く持つことにより仕事の能率的運営をスムースにし、共に楽しみ、共に苦労するという一体感を持たせる上に大いに効果がありました。

人間関係においてトラブルが起きるということは一言で言えばすべての人間が未完成であり、人格の相違から来るものだと思います。その意味では非常に難かしい問題であり、たとえ現在良くなつていてもこれから幾度となく悩まされることと思いますが、私はいかなる場合にも胸襟を開いて受け入れるおおらかさを持ち、寛容と愛情の

信念がすべてを解決して呉れるものと信じます。

#### G 主 任



一、現在私立幼稚園に主任として勤務、一三年目、職員一〇人。

① 年令と保育年数 六〇代・五〇代二名(各一三年)三〇代

(四年)二〇代(四年)(三年・三名)(一年)一〇代(助手)

② 緑戚関係、夫婦、次女、主任の妹、次女の友人

③ 園の概要 園児二八五、七クラス園長、主任、助手担任なし

④ 出身校 師範三、短大四、養成所三

二、私の園では、人間関係の問題はない。

四、人間関係の問題のために園をやめたいと思ったことはない。

#### 六、職員間の人間関係をよくするための努力点

① 安定感と自信をもつて保育に専心できるようにしたい。

○お互をよく知つて劣等感や優越感をもたないよう、または露骨に表現しないようにしたい。

○研究会、協議会にできるだけの意見を取り上げる。共同の作業や研究製作など、例えば人形芝居、幻灯のふきこみ(テープ)、生活発表会や展覧会などの運営に体を動かしながらお互の意見を交換しあい、親睦を深めていく。

② 責任のある立場を公平にもたせる。

#### 例、事務の分担、全園児の指揮とか司会。

③ クラス担任制ではあるが、全園児の担任であるという考え方を常にもつ。手のたりない時のたすけ合い、対父兄や特殊な子どもらの悩みを共にする。

④ 見学、旅行、講演をきく。研究会、観劇、会食など折あるごとに計画をし、保育者をはなれた立場でお互に理解しあい、その雰囲気を日常の保育の中に役立てる。余りぎすぎすぎしない人間性としての豊かさをもってほしいため。

⑤ 園長(主任)と個人的なつながりを深める。折あるごとに話し合い、家庭の事情、体の調子など気やすく話せる状態にしておく。

⑥ 土曜の午後は社会を広くみるとか習いごとをするとか、有効に使うようすする。

⑦ 職員側の意見として出た事柄に反省して、運営にあたる。

#### (過去一二年間の反省)

イ 意見とか方針が一部のものにのみとどまつて全般的にゆきわたらぬ。

ロ きまつた事柄が一部のものの意見で変更するのはよくない。ハ 突然に指令ができるのは困る。

ニ 父兄の前では一人前に取り扱つてもらいたい。例えば山川さんでなく山川先生と呼んだり、大きな声で命令などしない。ホ 勤務時間が長すぎて、社会との交渉がなく園と家庭の往復に終止するようになる。(このような事柄は取り上げて努力して

#### いる)

⑧ 個人本来の人間性で多少のいざこざがおこる場合。  
○クラスに立てこもつて全般的なことに無関心。

○共同で使用するものの片づけをしない。

○当番など投げやりでいい加減である。

年令の差、職歴の差などからたまにこのようなことが耳にはいるが、このような点が一番こまる。「私たちも若い時はそうだった。そのうちに気がつくよ」となだめている状態で、若いものの指導より年寄りを若いものに近づけようと努力をしているので年輩者からは弱いと言われる。

⑨ 対父兄の問題がおきた場合。

助言をしたり、園の責任として取り扱つたりする。

当を得た答でないかもしませんが、何か参考になることがあるば幸せです。過去三〇何年間の教壇生活の間にいろいろの人間関係を知つてきましたが、よい指導者に従つた時には自己の職業が最高に楽しかつたし相いれない指導者についた時は私は指導者になつたらあんなふうにはやるまいとおもいました。保育者が園児に対すると同じじように、指導的立場のものが職員に対しても立派な意見をもち、立派な人柄であれば問題はおこるはずがないと思うのですが：それと同時にいろいろな方面で一步高いんだと思つたり思われたりしないで、職員と同じ線にもぐつて同じ生活をし、同じ経験をしたいと常に努力しています。